

This is a newsletter from Shinshu University International Center (SUIC)
In case this email newsletter is unreadable, please try the online version
http://suic.shinshu-u.ac.jp/obog/newsletter/suicnewsletter_vol8.pdf

Vol. 8 — 2006. 12. 28 —

■ □ 信州大学国際交流センター ニュースレター □ ■

Shinshu University International Center (SUIC) Newsletter

■ 発行：信州大学国際交流センター (SUIC)
<http://suic.shinshu-u.ac.jp>

▼ △ 今号のもくじ △ ▼

- ・ ごあいさつ
- ・ 最近の出来事
- ・ 信大NOW4 2号
- ・ スタッフ近況報告 (村瀬さな子先生)
- ・ 信州生活ちょっとコラム (ことば編)

■ □

□ ごあいさつ

今年も残すところあと3日。
信州にはめずらしく雪のないクリスマスでした。

今年は、付属病院南側の大きな大きなもみの木にイルミネーションが灯され
病院の患者さんはもちろん、地域の方々にも喜ばれていました。
今まであそこにあんなりっぱなもみの木があるなんて知らなかった・・・！
(写真) <http://www.shinshu-u.ac.jp/news/htm/00504.htm>

きらびやかなクリスマスが過ぎると、一瞬にして街がお正月の凜とした
雰囲気になり早がわりするのが、なんとも日本の年の瀬だなあと毎年感じます。

皆さまにとって、2006年が有意義な年であったことを、そして
2007年がさらに喜び多き年になりますよう心から願っています。

■ □

□ 最近の出来事

▼ 私費留学生小論文コンテスト「2006年度アジア賞」授与式開催

12月17日(日)松本市内深志神社梅風閣において、長野県留学生交流推進
協議会(事務局信州大学)会員の留学生支援団体「松本ワイズメンズクラブ」
主催により、第8回信州大学私費留学生小論文コンテスト「2006年度アジア賞」
授与式が開催されました。

今回のコンテストでは、アジアからの本学留学生6カ国27作品の応募の中から
最優秀賞・優秀賞等に11名が受賞。授与式では、審査委員長から入賞作品について
「留学生の作文は、国籍を超え、世代を超えて、互いの「交流」を可能にする
未来へと開かれるその接点を示唆してくれるものである」との講評がありました。
(受賞作品一覧 <http://www.alpscacity.com/ys>)

また、野村彰夫本学国際交流センター長・国際交流担当理事から、受賞した留学生
への祝辞と、ワイズメンズクラブ会員の皆様への謝辞が述べられ、最優秀賞の
ミャンマーからの留学生 KHAING SU RATT (カイン ス ラッ) さんが、お礼の言葉
を述べました。

引き続き行われた交流会では、バイオリンとピアノによるクリスマスソングの
メドレー演奏等が行われ、本学留学生約40名とワイズメンズクラブ会員等関係者
との和やかな交流が行われました。

<http://suic.shinshu-u.ac.jp/current/event/event.html#06asia>

▼ 日本語研修コースの留学生たちが日本の伝統文化を体験

日本語研修コース（半年間の集中日本語授業）を受けている留学生たち（ロシア・ベルギー・中国・タイなど）が、いろいろ日本の伝統文化を体験しています。

11月3日には、松本市美術館で行われた「着物日和（きもの びより）」というイベントに参加しました。これは市内の着物団体が主催しているもので、留学生たちはモデルとして参加し、すばらしい着物を着させてもらっていました。男性は、足袋（たび・着物の靴）が小さくて、楽しいけど少し大変だったそうです。30センチの足のドイツの学生などがいるので。

授業の一環で、松本城の近くにある茶室・百竹亭で、茶道の先生の説明を聞きながら茶道の体験もしました。せまい入り口などにびっくりしながらも、本当の茶道とその精神を体験していました。先生が4時間も前に来て準備してくださったことにも感動していました。

また、着物日和を主催した先生のお宅に招待していただき、本当の日本料理と食べる作法も教わりました。普通の日本人でも滅多に食べない本当のコースの和食で、箸の持ち方、おわんの持ち方などを教わりました。また、前回着物を着なかった留学生が着物を着させてもらいました。

留学生たちがこのような伝統文化を体験しながら、表面だけでなく精神面も含めて日本文化を理解してくれることを望んでいます。

（写真）<http://isc.shinshu-u.ac.jp/shasin/shin06/win06/trad1.htm>

▼ 全学教育機構フレッシュアップセミナーで篠崎国際交流課長が講義

11月17日、開かれた大学を目指し、教職員、学生及び地域住民の親睦を深めるとともに、現代社会のさまざまな問題とともに学び考えていくことを目的に、全学教育機構教員有志によって、フレッシュキャンパスセミナーが行なわれました。

第1回目の今回は、篠崎泰昌国際交流課長が「21世紀の開発援助の潮流と日本のODA」という題目で講演を行い、多くの参加者が熱心に聴講し、活発な議論や懇親会を通じて交流を深めることができました。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/news/htm/00458.htm>

▼ 医学系研究科保健学専攻（修士課程）の新設が決定

2007年4月、信州大学大学院に、保健学専攻が新設されます。

目的は、人々の健康の維持、増進、回復を目的とした保健・医療・福祉領域における包括的な健康支援に指導的な役割をもって寄与できる人材を養成することであり、修了者は修士（看護学）または修士（保健学）の学位が取得できます。

パンフレット

<http://alps2.shinshu-u.ac.jp/documents/graduate.pdf>

平成19年度学生募集案内、出願書類は、医学研究科のサイトで公表されています。
<http://www.md.shinshu-u.ac.jp/index-j.html>

★

スタッフ近況報告 ～ 村瀬 さな子 先生（全学教育機構）

★
私には飛行機恐怖症という持病がある。ロープウェイも観覧車も怖いから、本質的には高所恐怖症なのだろうが、墜落すれば大惨事となる飛行機の怖さはまた格別である。実は、私は精神科医なのだ。それどころか、恐怖症など神経症治療は私の得意とする分野である。その名医？でも治せない私の飛行機恐怖症は、かなり根が深い。

古い話になるが、1900年生まれの父は、1928年アントワープで開かれた万国エスペラント大会に日本代表で出席している。後年、父は旅行好きが高じて船医までして各国を旅していた。父の影響から、いつも私には外国が身近であったし、将来は国際関係の仕事をしたいとも思っていた。しかし、祖父のように高齢だった父は晩年病気がちで、私の14歳の時に亡くなってしまった。多感な年頃での父の死。この肉親喪失体験が、上述のように頑固に続く神経症として私の人生に深く陰を落とすこととなった。

私は将来の世界のあり方として、人種や、宗教、政治、国家などを超越した地球規模での交流しかないと考えている。そして、自分もそういう方面で活躍したいと願っていたが、それを阻んでいたのが40年間も続く飛行機恐怖症であった。留学生センターで各国からの留学生と面談していると、飛行機恐怖症の自分にでもできる国際交流もあるものだとつくづく思う。

だが、結局、留学生センターに採用されたきっかけは、意を決して、1990年から2年間スウェーデンへ研究留学したことが大きい。神経症などない健康な信大OBの皆さんは、訪れる数少ないチャンスを生かして、どうか世界に羽ばたいて、飛行機恐怖症の私の分も頑張ってください。皆さんのご成功を心よりお祈りしてします。

(注意：留学生センターは本年4月から国際交流センターに名称変更している)

信州大学全学教育機構／国際交流センター
村瀬さな子



□ 信大NOW42号のご案内

「信大NOW」は、信州大学のニュース、歴史や人にまつわる記事、イベントや公開講座の紹介や研究者の研究内容など「信州大学が良くわかる」広報誌です。今号は、留学生へのインタビューが掲載されています。ご注目を！

信州大学の公式Webサイト上でも公開されています↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/>

★ 「信大NOW42号」ダイジェスト

■特集：教師の卵＋母親の学校参観！

▽教育学部伏木研究室のゼミ合宿レポート
▽北欧の教育事情から（教育学部 伏木久始助教授）

(全文) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now42/42-2-8p.pdf>

■SCIENCE NOW：研究室紹介

～修士時代に会ったゲルの「不思議」を追いかけて～
大学院総合工学系研究科 生命機能・ファイバー工学専攻
ファイバー機能工学講座
英 謙二 教授

▽たまたまできた低分子のゲル
▽電池から化粧品、医薬品へ
▽研究室名物は鮎料理

(全文) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now42/42-9p.pdf>

■インタビュー：信大の留学生

日本人学生が企画した、留学生へのインタビュー対談。
ロシア、モンゴル、ドイツ、韓国、中国出身の留学生が日本に来たきっかけや信大での生活についてなどについて語っています。
今の留学生たちの姿を身近に感じられる企画だと思います。ぜひ読んで下さいね。

(全文) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now42/42-10-11p.pdf>

■Special Report ～e-MADOって、とっても、いい窓です～

信大付属病院の無菌病室で、一般社会はもちろん、家族とすら隔離され過ごす子供たちのために、無菌病室と院内学級、あるいは自宅の家族とのコミュニケーションを可能にするシステム「e-MADO」が作られました。

インターネットで、こんな人間の心をつなぐシステムができるなんて、とても素晴らしいことですね。文部科学省第6回インターネット活用教育実践コンクールで「内閣総理大臣賞」を受賞したというのもうなずけます。

(全文) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now42/42-12p.pdf>

■Information & Communication

(全文) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now42/42-13-15p.pdf>

■（新）健康談話：甲状腺の病気を考えたことはありますか？

(参照) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now42/42-16p.pdf>

★ 信州生活ちょっとコラム (食べ物編) ★

▽さすがは産地の味！――りんご

信州のりんごはおいしいですね。
信州で生まれ育った人には当たり前の味かもしれませんが、よそからの人間にとっては感激的なおいしさです。

九州育ちの私に言わせれば「これまで食べてきたりんごは、りんごじゃなかった！」
…それくらいおいしいのです。

特におどろいたのは、中に黄色い蜜がたっぷり入っていること！
りんごに蜜が入るなんて、見たことも聞いたこともなかったので、初めて蜜の入ったりんごの切り口を見たときに、「…これっていたんでるのかしら？」
と思って、そのりんごをゴミ箱に捨ててしまい、家族に怒られたことがあります。
かじったときに、果汁がしたたるようなりんごなんて、九州ではありえなかった。

そんなおいしいりんごを食べつづけている信州の人たちは、りんごの味にもかなりうるさいです。ちょっと古くなってやわらかくなったりんごは「このりんご、ボケてる」と、あまり食べようとしない。
私なんかには、それでもかなりいい味のりんごだと思えるんですけどねー。

りんごが「ボケる」なんて言い方も信州独特です。「ボケりんご」なんて聞くとどうしてもまだ、りんごがかわいそうな気がしてなりません。

何はともあれ、今日もまたおいしいりんごがいただけるのは幸せです♪

…☆…☆…☆…☆… 修了者データベース登録のお願い …☆…☆…☆…☆…

国際交流センターでは、留学生の帰国後のフォローアップの一環として、データベースの作成と活用をすすめています。
まだこのフォームを提出されたことのない方は、ぜひ記入にご協力ください。
また、このニュースレターの配信先メールアドレス変更もこちらからできます。

http://jimuwwww.shinshu-u.ac.jp/isc/regi_form.html

…☆…

□配信元：信州大学国際交流センター(SUIC) 文責：飯沼
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
Tel: 0263-37-2865 / Fax: 0263-37-2181
<http://suic.shinshu-u.ac.jp>

□連絡先：iad@shinshu-u.ac.jp

- ・各種お問い合わせ
- ・配信停止希望
- ・メールアドレスの変更のご連絡
- ・情報掲載のご希望
- ・ご意見、ご感想 …など